

# MDP

## MATCHDAY PROGRAM

# 6.22 (土)

# 追



### 19:00 KICK OFF

vs 京都サンガF.C.

© 2004 KYOTO PURPLE SANGA CO., LTD.
**DF 3**

### 木村 誠二

Seiji KIMURA

木村誠二にとって新天地でのスタートは苦しいものになった。世代別の日本代表に選ばれてきた木村にとって今季はその集大成とも言えるパリ五輪イヤー。育成組織からプレーし続けてきたFC東京を離れ、環境を変えることを選んだ背景には当然ながらパリ五輪出場という大きな目標があった。大志を抱き、意気揚々と臨んだ今季だったが開幕前の読谷村キャンプ中に負傷し、長期離脱。「開幕から試合に出続ける」という目標はいきなり挫かれてしまった。それでも、新しい環境に身を置いたことをプラスへと転換させる。読谷村キャンプでの負傷は足だったため、ボールを蹴れない日々が続いたが、そこで取り組んだのが筋力トレーニングだった。「サガン鳥栖の筋力トレのやり方がこれまで在籍したチームとは違っていた」と言うように元々、恵まれた体格の持ち主だった木村だが、これまでになかった刺激を新たに加えることで鍛えられた上半身はさらに厚みを増した。けがも回復し、U-23日本代表にも選出。その一員として臨んだU-23アジアカップでは激しい当たりが繰り広げられる国際舞台でもまったく見劣りしない体躯の強さを見せ、また同時に負傷期間で取り組んでいたビジョントレーニングの成果を空中戦の強さでも発揮。優勝に大きく貢献した。

しかし、その一方で鳥栖での現状には木村自身、まったく納得がいかない。来月3日にパリ五輪のメンバー発表が迫る中、チームは失点がかさみ、順位も低迷。代表での活躍とは好対照になってしまっている。だからこそ、前節の九州ダービーでの敗戦後、木村は強い決意を言葉にした。「チームをこんな状況にしたままでパリには行けない。メンバー発表までの残り試合、全部勝ってチームを少しでも良い状態にして自分もパリ五輪のメンバーに選ばれる。それしかないです」。加入以来、パリ五輪への意欲を語る際に枕詞にしてきたのは「鳥栖で活躍して」という言葉。メンバー発表までまだその機会は残されている。木村はチームを勝たせて、心置きなくパリへと向かう。

夢の舞台に立つために。  
**木村誠二**  
 の中にある  
**鳥栖で活躍する**  
 という  
**誓い**